



令和3年度 第9号
明倫小学校校長室だより
R3.12.23 (発行者 千田)

12月23日をもって、2学期が無事終了します。この一年を振り返ると、新型コロナに対する不安、三方小への統合に対する不安などを抱える中、子どもたちは学習に運動に精一杯頑張っていたように思います。欠席は少ないし、喧嘩や言い争いはほとんど見かけないし、明倫小36人全員が楽しそうに学校生活を送っています。子どもたちの屈託のない**笑顔**に何度も心が洗われました。

「今年の漢字」が発表され、「**金**」の文字が選ばれました。コロナ禍で開催された東京オリンピック・パラリンピックで日本人選手が多数の**金**メダルを獲得したほか、大谷翔平選手のリアル二刀流での活躍、松山英樹選手の日本人初のマスターズ制覇など、スポーツ界は数多くの**金**字塔を打ち立てた一年でした。ただ私にとっては、明倫小最後の体育大会を最高の大会にしようと必死になって頑張る子どもたちの姿に、それ以上の感動を覚えました。36人全員に「**金**メダル」をかけてあげたい気持ちになりました。

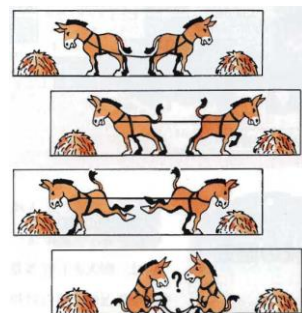


いよいよ明日からは子どもたちが待ちに待った冬休みに入ります。家族とのふれあいを大切に、この時期ならではの日本の行事や風習に触れ、有意義な冬休みを送ってほしいと思います。1月11日の始業式には、**笑顔**の子どもたちと会えることを楽しみにしています。

今年一年本当にお世話になりました。皆様もどうぞ良いお年をお迎えください。

人権週間

世界人権デーである12月10日(金)の業間に、人権についての話を子どもたちにしました。右の絵を見せ、「どうしたら草を食べることができるか、馬さんに教えてあげて下さい」と児童に問いかけてみました。「ゆずりあう」と「一緒に仲良く食べる」の二つの方法を発表することができました。



人権というと、差別やいじめをしないという話になりがちですが、大切なのは「思いやりの心を持ち、互いに支え合う」ことだと思います。明倫小では4月から「ありがとうカード」の取り組みをしており、「ありがとうと言える子、ありがとうと言われる子」の育成にこれからも取り組んでいきたいと思っています。



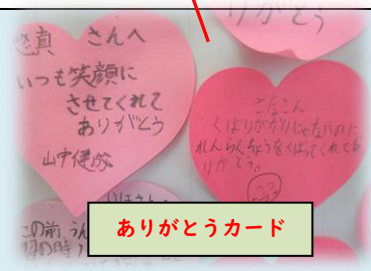
「ありがとうカード」三学期中には、「め・い・り・ん」が完成しそうです。

人権に関する本を多目的室に展示し、児童が自由に読めるようにしました。



1月

- 11日(火) 第三学期始業式
- 12日(水) 給食開始、冬休み明け計算テスト
- 13日(木) 冬休み明け漢字テスト
- 18日(火) 三方小との合同学習【学校公開日】
- 26日(水) 三方中学校見学会【6年生】
- 28日(金) スケート教室

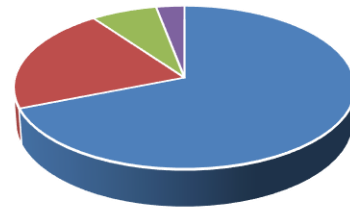


統合に向けて

今日で閉校式まで残り87日となりました。右のグラフを見ても、統合に対して不安を抱えている子がいることが分かります。6年生は、中学校に不安を抱えている子がいます。大人でも、職場が変わるなど環境の変化に対して戸惑いを感じるのだから、子どもが不安を感じるのは当然のことだと思います。学年が上がるほど不安を感じている子が多いように思います。以下に紹介する読書感想文でも、揺れ動く子どもの気持ちがよく伝わってきます。三学期も子ども一人一人の気持ちに寄り添い、4月からいいスタートが切れるように職員みんなで力を合わせ、頑張っていきたいと思います。

学校評価アンケート（児童） 11月実施

三方小と統合することに不安はあるか



- 不安はない
- どちらかといえば不安はない
- どちらかといえば不安である
- 不安である

『人を助けられる優しい上級生になりたい』 明倫小学校 5年児童

「人を助けられる優しい上級生になりたい」これは、この本を読んでぼくが強く思ったことだ。

主人公、コペル君は中学生で、ぼくよりも少し年上の男の子だ。コペル君はある日、学校で、友達がいじわるをされているのを見ても助けることができなかった。逃げ出してしまったのだ。

ぼくの通っている学校は小さな学校だ。全校で三十六人だ。だから腹が立ったら文句が言えるし、悪いことが起きれば注意したり相談したりできる。

ただ、来年度から、ぼくたちの学校はとなりの学校と合peiする。四月からはその学校に通うことになる。合peiに向けて、交流会などを行っているけど、人数が増えてもぼくは今までみたいに自分の意見を言えるのが心配だ。もしかしたら、山口みたいなこわい子がいるかもしれない。浦川君みたいにいじめられることがあるかもしれない。そんなことを考えていると、ぼくは新しい学校に行きたくないと思うようになった。

コペル君は、「どれだけむかい風が吹いたって、一步一步すすんでいる」と言った。ぼくはこの言葉が強く心に残っている。

ぼくはいつもむかい風が吹くと弱気になってしまう。すぐに楽な方に逃げてしまうし、腹が立ったら友達との遊びも途中でやめてしまう。家でも手伝いをせず、ゲームばかりだ。逃げてばかりだ。

そんなぼくでも、勇気を出して行動したことがある。ある時、学校に、テレビの取材でカメラをもった人が来た。授業の様子をさつえいした後、

「だれかインタビューに答えてくれませんか。」とたずねられた。周りのみんなは手を挙げずにだまっていた。ぼくはインタビューに答えようと思い切って手を挙げた。とてもドキドキしたけど、行動に移してよかったと思った。

「どうして行動に移せなかったんだろう」これはある日の出来事を思いかえしてコペル君のお母さんが言った言葉だ。正しいことができずに、情けない気持ちになったそうだ。ぼくはそんな気持ちになりたくない。

来年度、学校が合peiされ、新しい学校に通わなければならないのは、ぼくにとってのむかい風だ。しかも六年生として学校の先頭に立つことになる。

ぼくはこのむかい風に負けずに一步一步進んでいきたい。弱気になりそうな時はコペル君の言葉を思い返してがんばりたい。

人をなぐったり、いじわるをしたりする上級生になるのではなく、弱い立場の人やこまっている人を助ける行動ができる強い人になりたい。

ぼくは、人を助けられる優しい人として生きていきたい。

青少年読書感想文全国コンクール
福井県審査 優良賞